

深刻化する「排除社会」からの脱却

～手を取り合って共に生きる、暮らしやすい社会をめざして～

医療者に対する痛ましい事件をはじめ、他者を巻き添えにする拡大自殺事件が立て続けに起きています。

それぞれの容疑者に全面的な責任がありますが、コロナ感染拡大も影響して経済格差や貧困がいつそう深刻化するなか、社会から排除され孤立に追い込まれたことが事件の背景にあるのではと、炭谷茂さんは指摘しています。

弱体化した人と人との繋がりを再構築し、共に生きる社会を作っていくためにこの国にどのような対応が求められるのか、私たちに何ができるのか、炭谷さんとともに考えたいと思います。

日時

2022年 **6月10日(金)**
午後7時30分～8時45分

どなたでも参加できます

参加費無料

会場

スカイインテックタワー 111
スカイホール 定員200人

オンライン参加も
できます

※申込書は裏面にあります

講師

社会福祉法人恩賜財団済生会 理事長

すみ たに しげる
炭谷 茂氏

プロフィール

1946年富山県高岡市生まれ。県立高岡高校卒。1969年東京大学法学部卒業後、厚生省(当時)に入る。厚生省国立病院部長、社会援護局長、環境省官房長等を経て2003年7月環境事務次官に就任、2006年9月退任。現在恩賜財団済生会理事長、日本障害者リハビリテーション協会会長、中国残留孤児援護基金理事長、北陸グリーンエネルギー研究会理事長、富山国際大学客員教授、東京高岡会会長等を務める。また国家公務員在職中から一個人として障害者、引きこもりの若者、元受刑者などへの就労支援、貧困地域のまちづくりなど社会貢献活動に従事している。著書として「私の人権行政論」(解放出版社、2007年)、「社会福祉の原理と課題」(社会保険研究所、2004年)等がある。

- 会場ではマスクを着用ください。会場受付において手指消毒と検温を行いますのでご協力ください。
- 新型コロナウイルス感染拡大により、会場参加を中止してオンライン参加のみとする場合があります。ご了承ください。